

# 道徳科における問題解決的な学習に関する実践研究

高知大学大学院 総合人間自然科学研究科 教育学専攻 学校教育コース 指導教員 岡谷英明  
いの町立枝川小学校 教諭 中田百香

## 1 はじめに

小学校においては平成30年度から、道徳の時間が「特別の教科 道徳」（以下「道徳科」という。）となり、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童が自分自身の問題と捉え、向き合う「考える道徳」、「議論する道徳」へと転換していくことが求められている。その転換にあたって、多様な指導方法の一つとして「問題解決的な学習」というものが示された。本研究においては、この新たに示された問題解決的な学習の授業実践を行い、効果を検証して、指導の具体的な在り方を見いだす。実践にあたっては、問題解決能力の必要性を説いている松本（2004）、道徳的問題状況に対する応答力を育てる必要性を示す諸富（2015）、道徳的行為に移して結果の有効性を検証していく必要性を示す柳沼（2005）らの先行研究を基に、筆者が構想する問題解決的な学習に必要な四段階（①問題に気付く②自分の考えをもつ③改善策・解決策を考える④問題の本質に迫る）を一時間の道徳の学習の中で設定することとする。

## 2 研究の目的

(1) 道徳科において、四段階（①問題に気づく②自分の考えをもつ③改善策・解決策を考える④問題の本質に迫る）を取り入れた問題解決的な学習を実践・考察し、指導のポイントを見いだす。

【実践1】

(2) 目的(1)で見いだした指導のポイントを踏まえ、発達段階に応じた問題解決的な学習を構想・実践・考察し、発達段階別に指導の工夫を明らかにする。

【実践2】

## 3 研究内容

(1) 【実践1】問題解決的な学習の授業実践と考察

ア 対象 A小学校 4年（23名）

イ 研究計画（平成28年）

主 題：節度、節制 内容項目A-（3）

教材名：「危険なポケモンGO」（平成28年9月1日付け 高知新聞朝刊24面）

期 日：12月2日

ウ まとめ

【実践1】の授業を通して見いだされた指導のポイントを以下にまとめる。

〔表1〕問題解決的な学習における指導のポイント

段階	指導のポイント
①問題に気付く	多面的・多角的に問題を捉え、自分自身の道徳的な問題として問題に気付かせるよう、児童の多様な思考を引き出す。
②自分の考えをもつ	道徳的な問題に関わる選択をさせ、その選択の根拠を基に話し合いを深め、問題を自分に引き寄せ、自分事として問題を捉えさせる。
③改善策・解決策を考える	道徳的な問題をいかに解決するのか、自分自身のこととして考えさせ、なぜその解決策を考えたのか意見を交流する中で、自分自身の生き方の問題として、問題の本質に気付かせていく。
④問題の本質に迫る	問題を多面的・多角的に捉え、見方・考え方を広げていく中で、道徳的価値に関わる問題の本質に迫らせていくようにし、考えたことを自身の生き方に活かしていこうとする思いを養う。

(2) 【実践2】発達の段階に応じた問題解決的な学習の授業実践と考察

ア 対象 A小学校 2年A組 (23名)・B組 (21名)、5年A組 (27名)・B組 (27名)

イ 研究計画 (平成29年)

【第2学年】

主 題：生命の尊さ 内容項目D- (17)

教材名：⑦問題解決的な学習「生きものをかおう」(堀田泰永作)

①心情理解型の学習「ハムスター」(2年生の道徳 文溪堂)

期 日：A組 順序⑦(4月27日)→①(5月10日)

B組 順序①(5月18日)→⑦(5月31日)

【第5学年】

主 題：友情、信頼 内容項目B- (10)

教材名：⑦問題解決的な学習「ロレンゾの友達」(小学校読み物資料とその利用 文部省)

①心情理解型の学習「友の肖像画」(5年生の道徳 文溪堂)

期 日：A組 順序⑦(6月7日)→①(6月20日)

B組 順序①(6月28日)→⑦(7月1日)

ウ 結果と考察

(7) 連想法(上蘭2011)：提示したキーワードからの連想語を授業実施前後に一定時間で記入

a 結果：2年B組(21名)

【表2】キーワード「命」についての授業前・後の回答語の変容

	⑦問題解決的な学習	①心情理解型の学習
回答語種数	27→44 (1.63倍)	30→23 (0.77倍)
回答語総数	54→75 (1.39倍)	52→44 (0.85倍)
新出語数	27語	14語
回答語一部抜粋	虫(2) 花、自然、鳥、動物、木(各1)	元気、安全に、病気、体(各1)
増加語数	5語	3語
回答語一部抜粋	守る(4→5) こわい(3→4) どきどき(2→3)	大切(8→10) 心臓(2→4) 守る(3→4)

\*→は、Pre-Postの語数変化を示す

b 考察

⑦問題解決的な学習では、回答語種数、回答語総数とも授業実施前より実施後の方が増加し、①心情理解型の学習に比べて新出語数、増加語数とも多くなっている。増加した言葉として、「花」「自然」「鳥」など人間以外の様々なものの命をイメージし、命を多様に捉えていることが分かる。こうした結果から、問題解決的な学習は心情理解型の学習に比べて、授業の主題としている「生命」への認識が多様に広がり、多面的な思考ができることが示唆される。

(イ) 児童の記述文を基にした評価：授業の終末で、授業を振り返って書いた記述

a 結果：評価の視点「道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めている」

【表3】本授業の視点に沿った記述ができていた児童の割合

	⑦問題解決的な学習	①心情理解型の学習
本授業の視点	・生き物も私たちが人間と同じように生きていて、大切な命があるということを感じ取れている。	
A組 (n=23)	26.1% (6人)	34.8% (8人)
B組 (n=21)	19.0% (4人)	38.1% (8人)
合計 (n=44)	22.3% (10人)	36.3% (16人)

b 考察

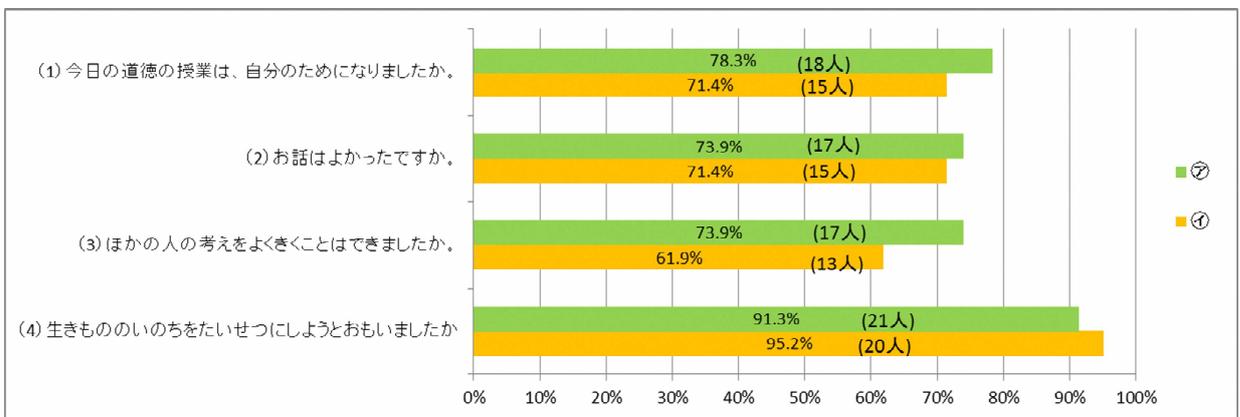
[表3] が示すように、㊦問題解決的な学習では、A組B組の合計が22.3%、㊧心情理解型の学習では、36.3%と㊧の心情理解型の学習の方が高い割合となった。どちらのクラスにおいても、道徳的価値の理解を自分自身との関わりで深めている記述ができた児童の割合が多かったのは、㊧の方であった。

㊦においては、「逃がす」か「飼う」という問題の間で悩ませ、葛藤させることで、自分の考えをもたせ、生き物にも命があるということに改めて気付かせるようにした。このような問題解決的な学習が初めてだった児童にとっては、葛藤を乗り越えて問題を解決したいというような学習意欲にはつながらず、㊧に比べると道徳的価値の理解を自分自身との関わりで深め、問題の本質に迫ることができなかつたと思われる。

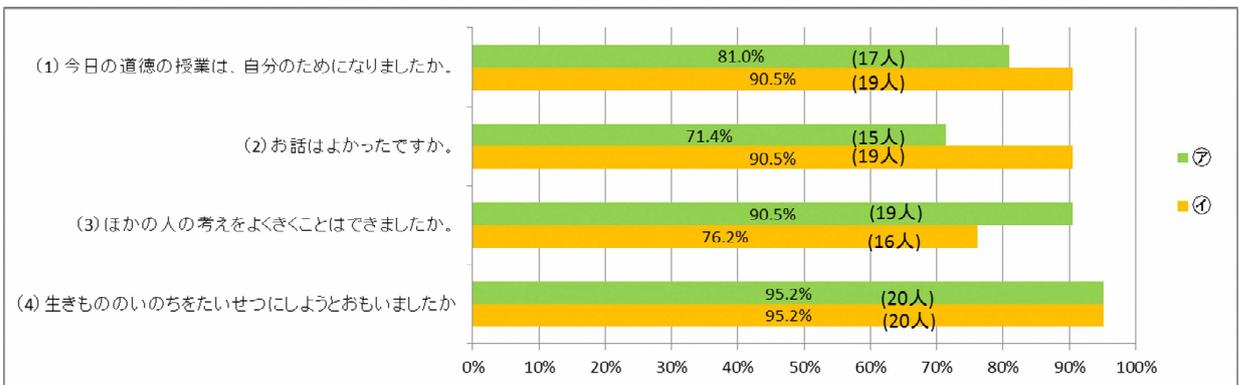
(7) 児童による自己評価：授業後に以下の(1)～(4)の項目について「思う」「やや思う」「やや思わない」「思わない」の4件法で自己評価

a 結果：4件法のうち「思う」の最肯定の割合

㊦問題解決的な学習  
㊧心情理解型の学習



[図1] A組 児童による自己評価 ㊦ (n=23) ㊧ (n=21)



[図2] B組 児童による自己評価 ㊦㊧ (n=21)

b 考察

[図1、2] に示すように、児童による自己評価では、四つの授業のうち、B組で行った㊧心情理解型の学習における(1)(2)(4)の項目で高い評価を得ることとなった。それは、記述文における分析でも示したように、場面ごとに主人公の心情を考えていくというこれまでの道徳の授業の流れが児童にとっては、分かりやすく、慣れていたのでないかと考える。(4)の質問項目「生きもののいのちを大切にしようとおもいましたか」に対しては、A組B組両クラス、どちらの授業においても、9割の児童が「思う」を答えており、この授業でねらっていた道徳的価値を実践しようとする思いをもたせることができたと考えられる。

[図2]に示すように、(3)の質問項目「ほかの人の考えをよく聞くことはできましたか」では、⑦についてB組の9割の児童が「そう思う」と答えている。この結果を[図1]のA組の結果と比較してみても、⑦の方が高かった。これは、考えをもたせる場面において、全員がネームプレートで意見表明し、その理由をそれぞれに発表したり、違う立場の人への質問を行ったりした場面でも感じられたのだと考える。意見交流はあまり活発には行えなかったものの、④の授業に比べると友達の様々な意見に触れることが多くなされていたことがうかがえる。そのことが、連想法に現れた「命」についての見方が多面的に広がったことにつながったと考える。

**【第5学年】**

(7) 連想法 (上藺 2011) : 提示したキーワードからの連想語を授業実施前後に一定時間で記入

a 結果 : 5年B組 (26名)

**[表4] キーワード「信頼」についての授業前・後の回答語の変容**

	⑦問題解決的な学習	④心情理解型の学習
回答語種数	43→62 (1.44倍)	30→47 (1.57倍)
回答語総数	77→92 (1.19倍)	44→77 (1.75倍)
新出語数	43語	37語
回答語一部抜粋	相手を思う (3) 分かち合う (2) 正しい道へ行く第一歩 (1)	つながり (10) 優しさ (3) 友達 (3)
増加語数	7語	4語
回答語一部抜粋	注意し合う (1→6) ずっと (1→4) 信じ合う (2→3)	信じる (10→11) 信用 (3→7) 大切 (1→3)

※→は、Pre-Postの語数変化を示す

b 考察

⑦問題解決的な学習、④心情理解型の学習とも、回答語種数、回答語総数とも授業実施前より実施後の方が増加している。また、④心情理解型の学習に比べて⑦問題解決的な学習は、新出語数、増加語数とも多くなっている。⑦問題解決的な学習の新出語としては「相手を思う」が現れ、「注意し合う」といった言葉が増加している。また、④心情理解型の学習では、新出語として「つながり」が現れ、「信じる」といった言葉が増加している。こうした結果から、⑦の方が④に比べると、「信頼」という言葉に対する一般的なイメージというよりは、やや自分に引き寄せた視点から、多様に思考を広げていることがうかがえる。

(4) 児童の記述文を基にした評価 : 授業の終末で、授業を振り返って書いた記述

a 結果 : 評価の視点「道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めている」

**[表5] 本授業の視点に沿った記述ができていた児童の割合**

	⑦問題解決的な学習	④心情理解型の学習
本授業の視点	・友情をどう育んでいこうとすることについて、思いをもっている。 ・自分ならどうするのかと、自分なりに、これからの生き方に生かしていこうとする思いをもっている。	
A組 (n=26)	96.2% (25人)	88.5% (23人)
B組 (n=24)	100% (24人)	95.8% (23人)
合計 (n=50)	98% (49人)	92% (46人)

b 考察

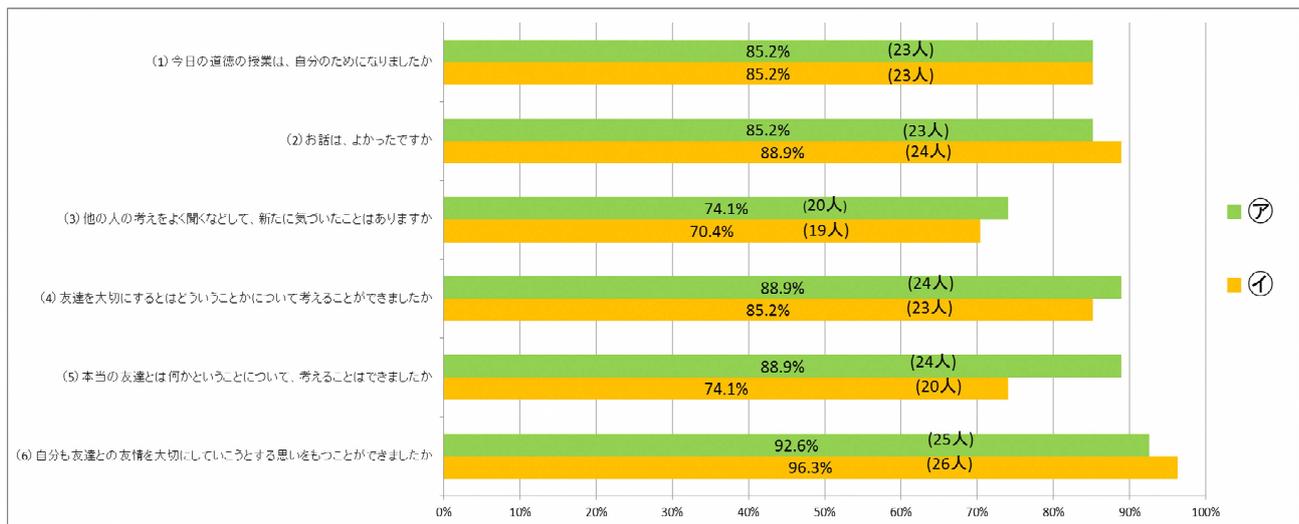
[表5]が示すように、A組B組の合計では、⑦④どちらの学習においても、9割の児童が本授業の視点に沿った思いをもつことができたという結果が得られた。また、大きな差はないも

のの⑦の問題解決的な学習の方が高い評価を得られた。この結果から、どちらのクラスにおいても、道徳的価値の理解を自分自身との関わりで深めた記述がなされた児童の割合が多かったのは、⑦であった。アンドレ・サバイユ・ニコライの3人の考えをもとに自分だったらどうするかと考えたことで、友達について自分自身との関わりで捉えることができたのではないかと考える。

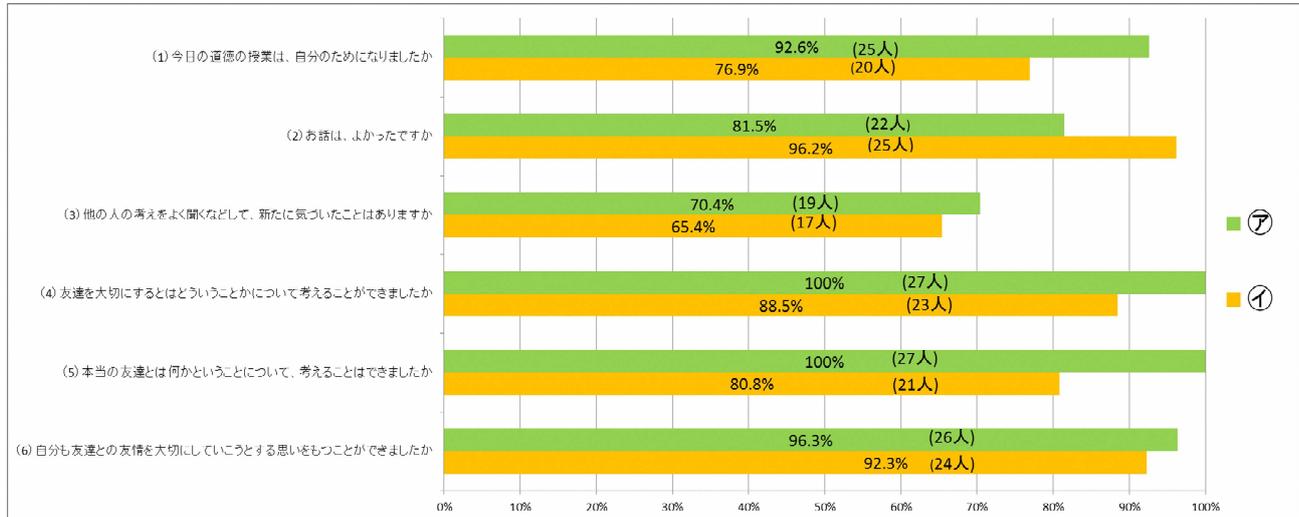
(ウ) 児童による自己評価：授業後に以下の(1)～(6)の項目について「思う」「やや思う」「やや思わない」「思わない」の4件法で自己評価

a 結果：4件法のうち「思う」の最肯定の割合

⑦問題解決的な学習  
⑧心情理解型の学習



【図3】A組 児童による自己評価 ⑦⑧ (n=27)



b 考察

【図3、4】に示すように、質問項目の達成率を指導法別にみると、両クラスとも⑦の問題解決的な学習の(3)(4)(5)が高い評価を得た。

(5)「本当の友達とは何かということについて、考えることはできましたか」という質問の達成率は、他の質問の達成率に比べ、⑦と⑧の差が大きく出ている。⑦の問題解決的な学習においては、指導過程の中に、友達として自分であればどうするべきだろうかと立場をもたせ葛藤させたり、その考えを交流させたりする場面を設けた。そのことによってじっくり悩む様子

【図4】B組 児童による自己評価 ⑦ (n=27) ⑧ (n=26)

が見られた。このように悩んだことが主題である「本当の友達とは」について、それぞれの児童が自分なりに考えもつことにつながったのではないかと思われる。

(3)の質問項目「他の人の考えをよく聞くなどして、新たに気づいたことはありますか」では、僅かな差ではあるが、両クラスとも⑦の問題解決的な学習の方が高かった。「信頼、友情」に「規則の尊重」を関連させ、親しい友達であるロレンゾへの対応について、児童には、「お金をもたせてだまって逃がす」アンドレ派、「自首を勧めるが、ロレンゾが納得しない場合は逃がす」サバイユ派、「自首を勧めるが、納得したら一緒に付き添う。だめだったら警察に知らせる」ニコライ派という三者三様の考えの中からどの立場に賛成するのかわを選択させた。その後、それぞれの立場の人に自分の考えと比べて質問をする場を設定した。そういった意見交流の中で、本当の友達について、罪を犯していたとしても友達だからかばいたいという考え、自首させることで罪が軽くなり同時にロレンゾも気が楽になるという考え、ひょっとして自分も犯人扱いされるかもしれないという不安を覚えるという考え、信じたい場合など、「友情」と「罪」の間に立ち、本当の友達ならどうするべきかと多面的に考えることができた。

#### 4 まとめ

以上の結果と考察を基に、指導のポイントを踏まえ、発達段階別の指導の工夫をまとめてみる。

[表6] 問題解決的な学習の指導過程における指導の工夫

	指導の工夫	
	第2学年	第5学年
指導のポイント	多面的・多角的に問題を捉え、自分自身の道徳的な問題として問題に気付かせるよう、児童の多様な意見を引き出す。	
①問題に気付く	<ul style="list-style-type: none"> <li>○2年生においては、主人公が困っているということにただ気付くだけでは、教師が与えた問題となってしまう。したがって、児童自身の問いとするために、教材を読んだ後の初発の感想から導くようにしたい。例えば、児童の生活の中にある教材と似たような問題を引き出し、「問い」につなげることが必要である。</li> <li>○「え？」や「あれ？」などの違和感や疑問を抱いたあとに、「なんとかしたい」と解決に向かうような切実感をもたせる工夫も必要。教師も一緒に困ってみる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童の身近な問題とも重ね合すことができる発問も行いながら、児童自身の問いになるように促す。</li> </ul>
指導のポイント	道徳的な問題に関わる選択をさせ、その選択の根拠を基に話し合いを深め、問題を自分に引き寄せ、自分事として問題を捉えさせる	
②自分の考えをもつ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○選択肢を与えても、そのうちのどれか当てはまらないとき、悩み過ぎて、思考につながらないこともある。そういう場合を考慮し、例えば、黒板にラインを示し、ライン上のどの辺りに自分の考えが位置するのかをネームプレ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○選択肢を与え、ネームプレートで自分の立場を明確にし、視覚的に捉えられるようにすることで、話し合いにつなげるようにする。二択や三択の場合でも、児童から「それ以外」が出れば、認める。大切なのは、その根拠である</li> </ul>

	ートなどで示させることで抵抗感を少なくさせる。また、選択した根拠を話す場面を設定する。	ため、話す場面を設定する。
指導のポイント	道徳的な問題をいかに解決するのか、自分自身のこととして考えさせ、なぜその解決策を考えたいのか意見を交流する中で、自分自身の生き方の問題として、問題の本質に気付かせていく。	
<b>③改善策・解決策 を考える</b>	○改善策・解決策を考えさせるためには、自分たちの問題として考えさせる工夫が必要である。例えば、クラスであった実際の出来事を教材化したり、自分たちの現実の問題と関連させて「どうしたらいい？」と問いかけたりするなどして、児童の身近な問題に引き寄せる配慮が必要である。	○質問をし合うことは、抵抗なく行える。その際、道徳的価値に関わる意見が出たら、全体に広げ、深めるようにする。
指導のポイント	問題を多面的・多角的に捉え、見方考え方を広げていく中で、道徳的価値に関わる問題の本質に迫らせていくようにし、考えたことを自身の生き方に活かしていこうとする思いを養う。	
<b>④問題の本質に 迫る</b>	○児童の発達段階として、自己中心的な面があるが、質問を行い、自分とは違った考えを聞き、考えが変化している児童もいる。ただ、全体的に質問ができていたかというところではない。質問というのは、相手の話をしっかり聞き、その考えを理解することが必要であるが、自分の考えをもちにくかった児童にとって、それは難しかった。大前提として、児童が考えをもつことのできる問題提示を行う必要がある。道徳的価値に迫れるよう、児童の気付きやつぶやきの中にある道徳的価値に意識が向くよう、教師が問い返しや揺さぶりなどの発問の工夫を行う。	○5年生にとっては、教材の話をも自分の問題として転化して考えることができ、問題の本質に迫って考えることができる。その際、より広い視野から本質を捉えるためには、他者の考えを聞くことが極めて重要で、③の段階で友達同士で質問し合ったことが、本質に迫ることに有効に機能した。様々な意見を聞いたからこそ、自分なりに問題の本質を捉え、他者と比較して自分はどうか考えるかに至ったと考えられる。

本実践においては、2年生は5年生に比べると、自分との関わりで考え、問題の本質に迫るところまでは至らなかった。しかし、低学年においては、児童の実態に応じて [表6] に示した指導の工夫を行っていくことで問題解決的な学習を行うことができると考える。

#### 《参考文献》

- ・松本勝信 (2004) 「問題解決能力を育てる必要は？そして、その授業は」 「教育研究」第59巻第7号
- ・諸富祥彦 (2015) 『「問題解決学習」と心理学「体験学習」による新しい道徳授業』図書文化
- ・柳沼良太・竹井秀文 (2005) 「問題解決型の道徳授業の理論と実践」『岐阜大学教育学部研究報告 教育実践研究』第7巻
- ・上蘭恒太郎 (2011) 『連想法による道徳授業評価－教育臨床の技法－』教育出版株式会社
- ・横山利弘 (2016) 「『特別の教科 道徳』を考える」p.7 道徳教育の視座 vol.6
- ・加藤宣行 (2017) 『考え、議論する道徳に変える指導の鉄則50』明治図書